



看護部の取り組み

看護研究発表

易怒性のある認知症高齢者とのバリデーションを使用したかかわり
～「生活歴」でその人らしさを見直す～

2階病棟 ◎小山喜代美 横張周一 吉川加奈子 富 弘子 武井基英 野呂暁子

【はじめに】

バリデーションとは、進行に応じ奮闘している認知症の人に、尊厳と共感をもって関わることを基本とし感情表出を促す技法である。今回その技法を用い、易怒性の軽減と「その人らしさ」を感じるほどに回復した事例を報告する。

【事例紹介】

A氏(女性) 97歳 アルツハイマー型認知症(平成28年) 主訴: 多動 断眠
特養入所後平成30年、大腿骨頸部骨折にて車椅子使用となる。多動にて見守りが厳しく入院となる(平成30年12月)
入院後は不安感が強くなるとじっとしていられず、助けを求めて歩き回る。「赤ちゃんを返さないよ」「私をだますつもりか」と他者の声や物音に対し怒鳴るなどコミュニケーションが難しい。

【方法】

- ①これまでの行動や言動をどのように捉えたか話し合う。
- ②集まったエピソードを使い「アセスメントシートと支援内容」を作成する。
- ③「生活歴」を作成する。
- ④Aさんを捉えなおし、安心できる居場所づくりとバリデーションを意識したかかわりを行う。

【結果】

Aさんとのかかわりを振り返り、少しずつ良い循環へ変わることができた。私たちは、本人を見ようとせず、また怒鳴られるのかと勝手に思いながら、トイレや風呂へと誘導していた。そこでAさんの言葉をじっくり待った。家族を思い家族を大事にする気持ち。思うように思い出せない、なぜここにいるかわからない不安。自分の思いが伝えられない、わかってもらえない苛立ちが伝わってきた。もう一度子供たちと母親として役割を果たしていた頃の自分を取り戻したい。子供たちも自立し、夫もたくさんの友達も失い、孤独になったAさんの心情を感じることができた。「戦時中に大切な子供を死なせてしまった。生きて帰るのに必死。人に迷惑をかけず生きてきたのに、今や認知症。そんな自分が許せない」と私たちのAさんに対する受け止め方が変わった。

廊下を歩かれているときは、毎日出かけることが好きで活動的だったAさんに、表情を見ながら「こんにちは、これからお出かけですか。」と尋ねると「お友達が待っているのよ」と返ってくる。「コーラスの友達ですね。楽しんできてくださいね」というと「ありがとうございます」と歩いて行かれたり、フロアの自席に座ってゆったりとすることが多くなった。

【考察】

認知症高齢者の方の思いを理解するには、その人の生育環境、教育、職歴、趣味などの生活歴を家族から聴取して、個人のこれまでの歩みに思いをはせて接することが基本である。ご本人自身のサインやメッセージを適切にキャッチすることは難しく家族からの協力が必須である。「お前が赤ちゃんを殺しただろう」などと攻撃的な訴えでAさんとの距離がますます遠くなっていた。今回は、ご家族からの貴重な資料提供があり、ご本人の言動の裏にある思いにたどり着くことができた。「今、過去のその記憶のどの辺を生きているのか」を想像しながらケアをしていく重要な資料になった。

また、バリデーション技法を使い、言葉のみで「誘導」せず、本人の言動に寄り添うと、Aさんの言葉に「人生の未解決」が隠されていることが分かった。私たちは高齢者が生きてきた歴史と生活歴と重ね合わせ、その言葉をも「その人らしさ」としてとらえる受容と共感が、その人の人生の未解決のこころの重みまで軽くすることができると信じ、ケアを続けたい。

【参考文献】

ナオミ・フェイル; バリデーション 筒井書房 2001



家族会からのお知らせ

残暑の厳しい日が続いておりますが皆様は如何お過ごしでしょうか。

「家族の会」は、認知症の人を抱えた家族の方々にお集まりいただき、現在抱えている問題や介護の具体的な方法などをグループで話し合い学びあう場です。

認知症が始まると、今まで当たり前に行っていた日常生活が徐々にできなくなります。また、感情面は認知症が重度になっても保たれています。個人差がありますが、敏感で傷付きやすい状況にあります。家族会では主に次のようなことを学びあっています。

1. ①認知症の人とのコミュニケーションの持ち方
②認知症の人の感情に配慮した日常生活への具体的な対応 ③行動・心理症状の予防と対応
④事故防止 ⑤身体疾患の予防、早期発見 ⑥その他介護困難への対応など
2. 介護家族の心理面(誤解・落胆・期待・悲嘆・不安・うつ状態・怒り・自責・後悔・喜び)への軽減、解決など時間をかけて支援いたします。
3. 認知症の人が利用できる介護保険サービス、社会資源その他についての最新情報の提供など
認知症の人の介護は長期間にわたります。身近で介護されている方の苦労は計り知れないものです。一人で悩まないで同じ介護者同士、日々介護困難な方の介護にあたっている当院スタッフと解決策を話し合い、できるだけストレスの少ない介護ができるよう支援いたします。皆様のご参加をお待ちいたしております。今後の開催の日時については未定ですが、開催予定ですので、日時が決まった際にまたお知らせ致します。

認知症ケアアドバイザー 五島シズ



～よつば訪問看護リハビリステーション～

訪問看護ステーションを開設して今年で約6年。

当初は訪問看護経験者がいない中、近隣の訪問看護ステーションやケアマネージャー様等の助言を頂きながら、利用者様を第一に考え支援させて頂きました。沢山の方に支えて頂き今では約100名の利用者様を抱えるステーションになりました。お褒めの言葉を頂くことも多く、とてもうれしく思っております。

介護の現場では利用者様を支えるために多職種連携は必要不可欠で、お互いに相談したり助言を頂いたりすることで自分では思いつかない案が出るが多々あります。私共のステーションだけでは到底支えきれず、とても多くの介護の力によって成り立っているのだと思います。新型コロナの影響でかわっている担当者が一同に会する機会が少なくなっていますが、報告や連絡、相談といった基本的な事を忘れず、連携を強化してより一層努力していきたいと思っております。

6年経った今でも利用者様第一の姿勢は変えることなく、利用者様やご家族様が何を望んでいるのか、それを実現させるために私達ができることは何か、私達が安心をお届けできる存在になれているのか、を常に考えながら介護と医療の力をかりつつ在宅療養を支援していきたいと思っております。

看護師 藤代 真弓

～よつば病院作業療法風景～

コーヒー療法



今月の予定

- 誕生会 2階・3階病棟
随時おこないます
- 理美容 2階・3階病棟
第1・3木曜日
- ミニ運動会
2階・3階病棟にて開催予定

感染症対策のためはすカフェ、クラブ活動等を中止させて頂きます。ご了承ください。